



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 8

2007. 8. 29 (No.2469)

第2560地区ガバナー／渡辺敏彦
 会長／荻根澤 隆雄
 会長エレクト／中村和彦(クラブ奉仕A)
 副会長／菊池 渉(クラブ奉仕B)
 幹事／杉山 幸英
 S A A／浅野金治
 会計／山田 富義

例会日／毎週水曜日 12:30～
 例会場及び事務局／
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.piala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

■本日の出席会員数:62名中42名
 ■先々週出席率:86.21%

【ゲスト】

・八木神社 宮司 石澤 功 様

【先週のメイクアップ】

- [8.23] 三条ローターアクトクラブへ
・橋 直樹さん、成田秀雄さん
- [8.26] ローター財団地域セミナーへ
・高橋 司さん



「ロータリーは分かちあいの心」

2007～2008年度国際ロータリーのテーマ



サルビア

副会長挨拶

菊池 渉 副会長



会長がコメリさんのホームセンター開業30周年の式典の方に行かれましたので、代わってご挨拶いたします。今日の卓話には八木神社の宮司さん。そして会長代理挨拶が坊主の私。みなさん十分に宗教の時間をお楽しみください。

生まれて初めて、開会の点鐘を叩かせていただきました。仕事柄、鐘は毎日何回も叩いております。普段は最初が二打、途中は一打、最後が三打です。

先ほどは間違って二打うつと、条件反射で「ジュゲム、ジュゲム、ゴゴウノスウリキレ…」とやりだすところでした。

昨夜は皆既月食だということで楽しみにしていたのですが、生憎の雨、残念でした。

お釈迦様にはひとり息子がおるのですが、名を「ラーフラ」といいます。古代インド語で「月食」のことです。「足かせ」「妨げ」「障害」と訳します。

自分の息子を「足かせ」と名付けたのは、不思議に思われるかも知れませんが、当時青年釈尊は、今日出家しようか、明日しようかと、悩んでおりました。そこに、男の子が誕生したという知らせが届いた。思わず、「ああ、これでまた『足かせ』が生じた」と嘆いたのです。その言葉を聞きつけた家臣によって伝えられた名が「ラーフラ」です。息子もかわいそうなものです。

「足かせ」が生じて、釈尊は出家し、やがてお覚りを開きになりました。息子・ラーフラも後年、釈尊によって無理矢理出家させられました。それでも、立派な仏弟子となりました。

そこにはまた面白い話がたくさんあるのですが、それはまた別の話。別の機会にお話しましょう。

幹事報告

杉山幸英 幹事

- ◎次週9月5日(水)の例会場はVIPになりますのでお間違いのないようお願い致します。
- ◎9月1日(土)はI・Mです。ご出席の方はよろしくお願ひ致します。
- ◎再度のお願ひです。
11月18日(日)地区大会出欠席の返事をくださっていない方は必ずご返事を事務所へお願ひ致します。

ニコニコBOX

菊池 渉さん

日頃、鐘(オリン)は叩いているのですが、今日、会長代理で叩かせていただきます。

杉山幸英さん

八木神社石澤宮司様を歓迎致します。
卓話を楽しみにしております。

斎藤弘文さん

安部改造内閣に大いに期待致します。

渡邊喜彦さん

残暑厳しい折、皆様例会出席ご苦労様です。久しぶりの出席です。
今日はいつもお世話になっています石澤先生、卓話ご苦労様です。

小越憲泰さん

まだまだ暑いですね。お互い健康には気をつけましょう。

高森章仁さん

ヨネックス女子オープンでは「追っかけ」をして来ました。

野崎喜一郎さん

今年の暑い夏も夏やせしませんでした。残念!

伊藤寛一さん、小林敬典さん、船越正夫さん、石塚欣司さん、山田富義さん、金子俊郎さん、若槻八十彦さん、石月良典さん、松永一義さん、樺山 仁さん、佐藤 武さん

石澤宮司さん、卓話ありがとうございます。
楽しみにしております。

8月29日分 ￥19,000
今年度累計 ￥289,000

9月のお祝い

◎会員誕生祝

- 6日 渡辺勝利さん
- 10日 長谷川有美さん
- 13日 杉山幸英さん
- 19日 外山雅也さん
- 20日 山田富義さん
- 25日 五十嵐 力さん



◎夫人誕生祝

- 22日 斎藤昌子さん(弘文さん)

◎100%出席賞

- 12年 山田富義さん
- 9年 渡邊喜彦さん
- 4年 小出子恵出さん

卓話

「八十里越峠の歴史とドラマ」



八木神社 宮司 石澤 功 様

今回、八十里越についてお話をさせていただきます。

実は、郷土史に関わりをもってから、40年ほどになります。と言いますのも、『下田村史』を作ったのが昭和46年でございますが、それ以来ということになります。また、

合併後は三条歴史研究会に所属しております。

◆八十里越峠、位置とその周辺

さて、まず八十里越がどこにあるかといいますと、レジメの下の方に地図が載っています。(地図参照)

下田側からいいますと、八十里越は、吉ヶ平から始まります。そして、只見町の入叶津というところがありますが、ここで初めて集落に出会うのです。そして、その先に叶津があり、只見町になります。地図を見ますと、そのずっと先北西の端に、会津若松があります。皆さんご承知のとおり、ここが会津の中心地であります。

それで、奥会津地方の人達にとって、一番近い町という、山を越えて来た三条市なのです。例えば只見町の人、病人が出て救急車に乗った場合に、会津若松市の病院まで1時間では行けないのです。

結論をいいますと、今、新しい八十里越の工事をやっておりますが、これが出来上がりますと、只見町からは、三条市の病院まで46分で来れるのです。ですから、新八十里越が早く出来ないと待ち望んでいる、夢の計画なのです。

お盆の頃になりますといつも、新聞に八十里越の記事が載ります。「八十里越期成同盟会」という会がありまして、かつて田中角栄総理大臣や、福島県の渡辺恒三議員などがこの計画に一生懸命になってくださったのですが、実現まであとどれ位かかるか、まだはっきりしていません。

実は昭和64年に、新しい八十里越の工事が始まっております。この新しい路線というのは、従来の八十里越とは全く違う場所を通るのであります。吉ヶ平ではなくて、大谷ダムの上流から全く新しい路線の工事が始まっているのです。

全長21kmの間にトンネルが14本、今7本完成しております。その中でも最大のトンネルが9号トンネルで、長さが3,173mあります。去年の8月29日に1,700m余り進み、ついにこのトンネルは、県境を越えて福島県側まで入っております。あともう少しなのですが、そのもう少しが、なかなか容易でないのです。

それから橋ですが、全部で16の橋が架かります。今現在、9つの橋が出来上がっております。そのうち5号橋というのが一番長く、難工事でありまして、高さが200m、途中でカーブしています。谷川を渡るわけですから、これが出来上がると、橋を見るだけでも、来た甲斐があるという風な景色になるだろうと想像できるわけです。

それで、工事開始からすでに20年が経っていますので、いよいよという時は、工事用の道路を一部共用して開通させるのではないかとという観測もあるくらいです。しかし、そうなりますと、工事用の曲がりくねった道ですから、とうてい救急車で只見町から通うわけにはいかなくなるでしょう。

ということで、現状をお話させていただきました。

9月26日には、5号トンネルが開通するというので、開通式の案内が来ておりました。

◆峠を往来した人々と物資の交流

さて、この八十里越を挟んだ会津とはどういう所かといいますと、この辺一带は南会津また奥会津といい、それこそ標高が下田とは違い、高いのであります。それで、出来る産物というのも限られていました。粟、煙草、麻、稗、豆類。産業としては、蚕などが盛んな所でありました。今、私が言った産物の中には米がありません。

その米不足というのが、歴史上、何回か起こっています。福島県の4分の1を占める会津地方の人々は、不作の年、天候不順の年にはどうしたかといいますと、越後からの救援米を頼りにしていたのです。逆に、越後の方が不作の年もありました。そういう時は、やはり相手側から助けが来たわけです。

それで、人間が生活してゆく中で、最低限必要な物は、水そして塩です。この塩がなければ生きていけないのであります。下田までは、三条に近いわけですから、寺泊の港から三条を通り下田へと来るわけですから、会津地方の人々は、どこから塩を持ってくるかといいますと、ほとんどが八十里越に頼っていたのです。他の方法としては、阿賀野川を遡り、津川から県境を越えて会津に入ります。阿賀野川と只見川の接点から、只見川を遡って求めることも出来たのですが、値段が違います。例えば塩魚、塩鱈や昆布などは、三条に来て買ったほうが早くて安かったです。津川回りで入ってくる品物は、高く、それこそ時間が経っていますから、鮮度が違うわけです。というようなことで、向こうの地方の人々にとって、



三条の市など峠を越えた中越地方が非常に大事な流通の場所であったということでありませう。

◆歴史の裏舞台、峠のドラマ

次に、今度は年表のほうをご覧くださいと思います。説明の手順を上の方に番号を付けてあります。(年表参照)

まず、一番の高倉宮以仁王であります。この人ほど伝説の多い人はないようではありますが、治承4年、1180年、越後に落ちのびた時に、八十里越をして吉ヶ平に入り、暫く休まれたということで、その家来である伊豆守源仲綱が吉ヶ平で亡くなり、その墓があります。

2番は長尾影虎が少年時代、栃尾に居ましたので、八十里越を越えて、諸国に出向いたということでありませう。

それから3番を見ますと、秀吉が出てまいります。秀吉に攻められた、会津横田の山内という殿様が、八十里越を越えて、ゆかりのある下田に落ちのびてまいりました。下大浦の延命寺というお寺の裏の方に、立派な墓が残っています。殿様の墓ですので、「院殿〜大居士」という風に、村には無い戒名が彫ってあります。五万石を誇った山内の殿様でしたが八十里越をして従った家来は、わずかに52名だったそうでありませう。横田・須佐など、従者が土着し、その名が現在も下田・栃尾に残っております。

それから寛永年間(年表の5番あたり)になりますと、歴史上に会津と越後側が救援する事実がたくさん出て来るわけがございます。農民300人が越後高田方面に逃れる。これは逃げたのです。あまりの不作に田んぼは荒れ果て、家族を養えない、それで集団

で駆け落ちということで、村からいなくなってしまうのです。こういうことが続きますと田んぼが荒れてどうしようもない、それで会津の殿様は外出禁止令のようなものを出して止めようとするのですが、食うか死ぬかでございますからそんなことはおかないで逃げるのです。逃げて越後に入ると結構仕事があったようです。そして天明年間、これにまた凶作が起こります。越後の米1千俵が八十里越で会津に送られたこと。年表の8番、天保4年になりますと天保の大凶作といひまして、天明から続いて何年も経たないのですが、このころ大変天候不順があり、全国的に凶作が続きます。この年も凶作で米1千俵が越後から会津へ運ばれたこと。

さて、どんな人たちが運んだかといひますと、実際に働いた人たちの道具が残ってる家があります。背負子といひまして八十里越を荷物を背負い、運んだのです。草鞋がけ、脚絆、ももひき、裸です。これは夏ですから、腰には印籠やタバコそして、ばんどりを裸の上につけて、それに荷縄でしっかり荷物を縛ります。そして必ず鍋を持っていくのです。これは万が一のとき峠で火打石で火をおこし、緊急の食料を自給する鍋です。これは絶対忘れなかったそうです。米俵を背負ってることでございますが、1俵背負えないので8貫目位までは背負っていったそうです。そして一番上には雨よけのゴザまたは、日よけのコモをかけていたそうです。そして休むのは5分間です。そのとき棒を荷物の下に置いてつかえ棒にしますが、山坂を登る時にはつかえ棒が杖になり、一歩一歩山道を行くのです。そして頂上で休んでまた会津へ向かいます。夕暮れにさしかかった場合に、木ノ根という所で越後から会津に入るわけ

八十里越略年表

年号	西暦	事項
16	昭和六一年 平成十三年 平成十八年	一八八六 二〇〇二 二〇〇六
15	昭和五八年	一九八三
14	昭和四七年 昭和四八年	一九七二 一九七三
13	昭和四五年 昭和四七年 昭和四八年	一九六二 一九六三 一九六四
12	昭和四十年 昭和四十二年 昭和四十七年	一九三三 一九三五 一九五六
11	明治七年 明治三三年 明治三五年 大正六年	一八七四 一八九〇 一九〇〇 一九一七
10	大正十五年 昭和六年	一九二六 一九三一
9	元治元年 慶応四年	一八六四 一八六八
8	天保四年 天保十四年	一八四三 一八四三
7	天保六年 天保十四年	一七八四 一七八六
6	天保四年 天保十四年	一八四三 一八四三
5	寛永十九年 寛文五年 延宝三年	一六四二 一六六五 一六七五
4	慶長五年	一六〇〇
3	天正十七年 天正十八年	一五八九 一五九〇
2	治承四年 延元三年 天文十四年	一一八〇 一一三三 一一四五
1	延元三年 天文十四年 天正十七年 天正十八年	一一八〇 一一三三 一一四五 一五八九

北陸建設弘済会編「八十里越」他郷土史料より抜粋

ですが、そこには木ノ根小屋という小屋が常設され、他に八十里越の街道には3つぐらいありました中で、一番大きいのがこの小屋であります。小屋の中には囲炉裏があったり、薬箱がおいてあったり、それから番をするおじさんがいました。泊まった人はそこにいくらかの礼金をおいて帰る。そのおじさんが、顔色の悪い旅人が来ると面倒を見てやったりしました。それにしても1千俵の米を運ぶのだから、いくら大勢で通っても30人くらいまでだったのですから何度もピストン輸送をしなければならなかったそうです。道幅は大体1間ぐらいです。細いへつりのような場所では3尺しかない。一步足を踏み外すと登って来られないような谷底でございます。こういう救援米のやり取りなど、人々の往来が多くなりますと、中には良くない者が出入りをする、あるいは禁止の品物が持ち出されるということで、下田側は吉ヶ平の手前の運場のさらに手前、葎谷（もぐら谷）という集落に御番所が置かれました。同じ頃、反対側（会津側）に叶津にも御番所が出来ました。役人が派遣されている場所なので取り調べも次第に厳しくなり、捕物の道具や槍や鉄砲などの武器がおいてありました。荷物を検め、留めたり、また人も通さないという風な権限を持っていました。峠を通る人と荷物の安全を見張っていたのです。

そこで天保14年になると、行き来が多くなるに従ってこの道幅では狭く、天保の大開発が行われたのです。工事後の道幅は2間半から3間になりました。峠からこちら側（越後側）は村松藩ですので、村松藩は工事を集落単位で1/30位に分割しました。そして競争をさせて6月に始まった工事が9月中頃に終わっています。反対側は南山御蔵入領といって幕府の支配下になっていたのです。お金の寄付を申し出る人がどんどん来るのです。記録では水原町の佐藤友右衛門という大商人が1千両の金を出しているのです（今の1億に相当）。幕府はたいした金も出さないで工事が終わるのです。なぜこんなに金を出したのかというと、その見返りに塩の専売権が与えられました（塩は生活に不可欠）。更に、苗字帯刀しかも永代苗字なので、子供、孫、ひ孫の代まで苗字を名のってよし、刀も大小差してよしという特権が与えられました。それが大きな魅力の一つだったことでしょう。

年表の10番、戊辰戦争の最後の戦いは越後の国でした。幕府軍に従わない仙台、会津、山形、米沢など、特に村松藩は長岡藩と同盟でもあるので、村松も新政府軍（幕府軍）に刃向かう側でした。長岡では河井継之助が軍事総督家老だったので、策を練っていました。小千谷の慈眼寺で軍監岩村精一郎を相手に自分の持っている嘆願書を説明しようとしたが、22歳の相手は取り合わなかった。これが長岡藩の運命を決めたといわれています。長岡藩の長岡城が5月に落城しました。すると城下町に住んでる普通の町民たちは怖いため、今の成願寺温泉あたりの山に逃げました。残った侍たちは戦っています。一旦落ちた城ですが、下田の駒込赤坂峠のあたりまで戦いは及ん

で来ます。見附栃尾はもちろん、また押し返していった河井継之助の指揮のもとに長岡城を一旦奪い返すのですが、3日後に数が多く近代的な武器を持った新政府軍にやられました。それからが八十里越がとてにぎやかになるのです。

最初の5月のとき、一番最初に逃げた長岡藩主12代牧野忠訓公とそれを取り巻く御付の人々約400人が、栃尾の葎谷から下田の運場に出て吉ヶ平にやってきました。そして敵が来るというので、八十里越を越えて最終的に仙台に向かいました。河井継之助は殿様を仙台からフランスへ亡命させようとしていたそうです。長岡藩がこの戦争で用意していたお金は今時の11億円でそのうちの6億円を戦争で使ったとされています。長岡城2度目の落城により、皆で逃げる体制に入り、長岡の陣地で河井継之助は鉛玉がひざにあたり、膿んでいて吉ヶ平に来たときには担架に担がれ吉ヶ平で一泊します。翌日、八十里越を行くのですが、途中一番見晴らしの良い所「小松横手」が越後の見納めの峠と言われています。越後を出るのを拒絶し続けた継之助も家来に説得されて行きました。二週間後に落ちのび先の只見町塩沢の矢沢漢方医の処で生涯を閉じました。「八十里 腰抜け武士の

越す峠」と狂歌を読んだのは、越後見納めの峠ともいわれる鞍掛峠であるといえます。「死んだら棺桶を二つ作りすぐに火葬せよ」とのことにて、火葬し従者はすぐ熱い遺骨を背負って行ったそうでありませう。残った家来は、同じ考え方の藩を頼って行きました。その中の山本帯刀という隊長は、逃亡兵士たちを最後まで守り活躍したのです。後に河井家、山本家は絶家処分になります。長岡藩有数の武勇を誇る山本帯刀は官軍の手で首を落とされますが、後にこの山本家を継いだのが高野五十六、後の山本五十六（元帥）であります。長岡は日本的に有名な人を多く輩出しておりますが、何故か河井継之助については現在でも評価が分かれています。河井継之助記念館は、越後より、只見の方がかなり先にできました。只見の方では神様として考えられたほどです。

◆拓け行く新八十里越・国道289号

後には鉄道が入り八十里越が役目を果たさなくなってしまう。昭和の初め、木炭生産の道であった役割も斜陽化し、人の通行が無くなり吉ヶ平は陸の孤島になってしまいます。八百年の歴史を閉じ集団離村となったのは昭和44年。八十里越は廃道に近い状態になりました。昭和58年に森町小学校では、6年生と保護者、先生方でいにしへの故郷をしのび、学校行事として八十里越えをいたしました。（吉ヶ平～田代平）私も当時は次女が6年生でありましたのでこの行事に参加し、新緑の山道をかき分けて峠を歩いたり登ったりしたことが深く印象に残っております。与えられた時間がまいりました。話せば、きりが無いのですが終わりに致したいと思います。

御静聴ありがとうございました。

●●● 三条ローターアクトの活動 ●●●

《活動報告》

- ◆ 8月19日(日) 10:30~12:00
海外研修説明会 (リサーチコア 4階 異業種交流プラザにて)
今年の海外研修は、三条ロータークラブ様の姉妹クラブである新竹城中ロータークラブ・ローターアクトクラブの方々と交流会をメインに台湾の新竹・台北を視察する計画です。
日程は11月23日~25日の3日間です。
- ◆ 8月23日(木) 19:30~21:00
三条ローターアクトクラブ8月第二例会 (リサーチコア 4階 異業種交流プラザにて)
例会テーマ「国内・海外旅行の四方山話」
三条ロータークラブの橘さんから、過去の楽しい旅行の思い出話や、海外旅行の失敗談をおもしろおかしく聞かせて頂きました。今後、海外旅行をする際の参考になりました。
- ◆ 8月25日(土)~26日(日) 19:00~7:30
地区行事 直江津サマーキャンプに参加

《今後の活動予定》

- ◆ 9月6日(木)
三条ローターアクトクラブ9月第一例会 (リサーチコア 4階 異業種交流プラザにて)
例会テーマ「一般公開例会」
FM-PORTのパーソナリティの遠藤麻里さんを講師としてお招きし、「奉仕の実践と人間開発」について、講演をしていただきます。
- ◆ 9月8日(土) 朝清掃
- ◆ 9月15日(土)~17日(月)
ライラ研修に参加予定 (五頭連峰少年自然の家)

< 第二回 ゴミ拾い活動報告書 >

三条ローターアクトクラブ
地域貢献委員長 川口 直人

日時：2007年8月11日(土) 午前6時15分~午前6時45分
場所：本町商店街 集合場所：丸井今井邸前
参加者：丸山、桜井、木口、中野、長谷川、川口 以上6名

8月11日土曜日に本町の商店街で第二回ゴミ拾い活動を行いました。あいにく産業カレンダーは休日ではありませんでしたが、前回同様多くのアクトメンバーが参加してくれました。

メンバーは二手に分かれ、一方は五十嵐側の下流に向かい、もう一方は上流に向かってゴミ拾いをしました。今回は商店街ということもあり、収集したゴミはそれほど多くありませんでした。ゴミの種類はタバコの吸殻が一番多く、次いで空き缶・空き瓶でした。なお、タバコの吸殻は歩道と道路の間に多く見られました。

20分ほどかけてゴミを収集した後、集合写真を撮りました。次回はゴミを拾っているところも撮りたいと考えています。

収集したゴミは1つにまとめた後、じゃんけんをして負けたメンバーが責任を持ってゴミ処理施設に持って行きます。今回は栄の商工会の方がしてくれたので、今期はこれが最初のじゃんけんになります。手に汗握る真剣勝負の結果、第一回目の〇〇は中野君に決定しました。

第三回の清掃場所は未定ですが、要望がありましたらご連絡ください。

次週例会 9月12日 会員卓話 樺山 仁 会員

次々週例会 9月19日 外部卓話 さんじょうおやこ劇場
理事長 川瀬弓子 様

